



◆◆期間限定、花粉の舌下免疫療法◆◆



今年の花粉症は、いかがだったでしょうか？
一般的に、一度花粉症になると、無治療の場合、毎年花粉の時期をくぐるたびに症状は増強します。
軽い場合は、症状のあるときのみ抗アレルギー剤の内服でいいのですが、ひどくなると、1月の花粉の飛び始める前から5月の飛び終わる時期まで、継続して内服が、おすすりめです。
内服しても、鼻汁が止まらない、ティッシュが手離せない方やステロイド点眼のお世話になった方は、6月から12月の間、舌下免疫療法が、開始できます。
月に1回の来院を3年間続けると、8割の人が、軽減効果が、あります。
今年、難儀された方は、将来に向けて、検討されてみては、いかがですか？
院内に舌下免疫療法のパンフレットもあります、興味がある方はお気軽にスタッフにお声掛けください。

◆◆中耳炎を予防するには？◆◆

もっとも効果的な方法は、鼻水が出た時はこまめに鼻水の吸引をしてあげることです。おうちで吸うにも限界がありますし大変です。お鼻吸いにだけでも診察に来られてください。他にも哺乳瓶を使った授乳時に乳児の姿勢が水平になると、ミルクが耳管から中耳に流れ込んでしまうことも中耳炎を引き起こす要因になります。哺乳瓶でミルクをあげる時には、頭を起こした姿勢で授乳し、授乳後はゲップをさせてあげることによってミルクの逆流を防ぎましょう。
タバコの煙に含まれる青酸ガスも中耳炎の要因になります。おしゃぶりを長時間続けることも耳管を痛めやすくなり中耳炎の引き金になります。
またダニやハウスダストなどの影響で起こるアレルギー性鼻炎になると、中耳炎にかかりやすくなり治りづらくなるのでしっかりと治療していきましょう。



◆◆幼児期によくある食事の悩み ～小食・ムラ食い～◆◆

- ・食事に集中しているときは食べるペースを大切に！
- ・量ではなく質に気をつけましょう！
- ・切り方や盛り付けで子供の喜ぶ工夫を！
- ・おやつは食事の後で内容にも気をつけましょう！
- ・空腹感と満腹感のメリハリを感じさせてあげましょう！
- ・からだを動かす遊びをしましょう！



1回の量は少なめでも1日で見ればバランスがとれているなら大丈夫です。少量を盛り付けて全部食べられたという達成感を持たせてあげましょう



◆◆梅雨から増える食中毒◆◆



梅雨時期以降、食中毒が発生しやすくなりますが、ご家庭では何か対策をされていますか？厚生労働省によりますと、食中毒にはつけない・増やさない・やっつけるの予防三原則があります。細菌によって違いがありますが、発熱、腹痛、嘔吐、下痢、血便などの症状が起こります。特別な治療法はなく、基本は原因菌を体外に出すために整腸剤の処方をしています。まれに重症化や脱水症を引き起こすことがあり、その場合は投薬、点滴、検査が必要なこともあるので早めに受診して相談されてくださいね。

梅雨から9月頃に流行する食中毒

- ◎ 生肉に多い腸管出血性大腸炎 (O-157)
- ◎ 鶏肉に多いカンピロバクター
- ◎ 様々な食品が原因食となる黄色ブドウ球菌

対策!!!!
衛生的な手洗い
冷蔵庫保管
十分な加熱



◆◆アルコール消毒での急性アルコール中毒◆◆

先日、手指消毒のためのアルコール消毒液をなめた子どもが急性アルコール中毒になった例がニュースで報道されました。
保育園に通う5歳の女の子が突然意識不明となり救急搬送されたそうです。園で保育士が気づいた時には「目がぐるぐる回る、気持ち悪い」と訴えました。血液検査やCT、MRI検査では異常は見つからず、原因が分からないままだったが、意識が戻り本人が室内にあったスプレータイプのアルコール消毒液をこっそり手につけ、なめる行為を繰り返したことを打ち明けました。以前にも数回なめたことがあったそうです。
本人の話を受け、血液検査をして急性アルコール中毒と診断されました。女の子は回復した後遺症もなく退院したが、まれに低血糖で死に至ることもあるそうです。
コロナ禍で当たり前に設置されている消毒スプレーやジェルの多くはお子様の手の届く高さにあります。当院では小さなお子様の手が届かない高さに置いてありますので、親御さんの監視下で使用していただいています。
手指消毒は大切ですが、使い方によっては危険性もあるということを知り、お子様の使用には十分注意して感染予防をしていきましょう。



『6月の代診の先生のお知らせ』

8日と22日の水曜日の診察は畠添先生となっております。
診断書の記入や体重チェック、臍ヘルニアの診察の方は院長先生の診察日に来院していただくようお願いいたします。

